

様式第3号（第13条関係）

会議録

| | | |
|---------------|---|--|
| 会議の名称 | 令和7年度第1回朝霞市博物館協議会 | |
| 開催日時 | 令和7年10月30日（木） 午後2時～午後3時15分 | |
| 開催場所 | 朝霞市博物館 講座室 | |
| 出席者及び欠席者の職・氏名 | 委員8名（金子幸男会長・榎本洋二副会長・櫛田直子委員・杉山正司委員・陶山憲裕委員・利根川仁志委員・増山智弘委員・吉岡知子委員） 欠席者2名（小島孝之委員・渡辺貴子委員） 事務局4名（藤原文化財課長兼博物館長・岡部課長補佐・橋詰主任・平野主任） | |
| 議題 | 1 令和6年度事業報告 2 令和7年度事業計画及び進捗報告 3 その他 | |
| 会議資料 | 資料1 令和6年度事業報告 資料2 令和7年度事業計画 | |
| 会議録の作成方針 | <input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録 | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録 | |
| | <input type="checkbox"/> 要点記録 | |
| | <input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年） | |
| | 電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間 | <input checked="" type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月 |
| | 会議録の確認方法 会長による内容確認 | |
| 傍聴者の数 | なし | |
| その他の必要事項 | | |

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

（岡部補佐）

皆さん、こんにちは。

今日は議題が三つほどありますが、皆様のご審議をお願いしたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

続きまして、事務局職員の交代についてご報告をさせていただきます。

本年4月1日付で新たに博物館館長補佐に、私岡部と主任として橋詰が着任いたしましたので、どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、会議資料の確認をさせていただきます。

委員の皆様に事前に送付しております資料として資料1としまして、令和6年度事業報告、資料2としまして、令和7年度事業計画です。

こちらにつきましては、誤りがあり、修正したものを机上の方に置かせていただいております。

このほか、会議次第でございます。

過不足等ございましたら、挙手にてお知らせください。

よろしいでしょうか。

（全員）

はい。

（岡部補佐）

次に会議の成立について朝霞市博物館条例第10条第2項で、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができないこととなっております。

本日小島委員、渡辺委員のお二人の方が欠席のご連絡をいただいておりますので、10人中8人のご出席をいただいておりますので、会議が成立することをご報告いたします。

それでは議事に入らせていただきます。

朝霞市博物館条例第10条第1項により会長が議長を務めていただくこととなっておりますので、以降の議事進行につきましては金子会長をお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

（金子会長）

はい。

それでは議事に入らせていただきます前に、本会議の会議録の確認ですが、会長であります私に一任させていただきますのでよろしいでしょうか。

（全員）

はい。

（金子会長）

ありがとうございます。

それではこれより議事に入らせていただきます。

本日の会議につきましては、市政の情報提供及び審議会等の会議開催・公開に関する指針により、非公開に該当する部分がありませんので、公開とし、傍聴要綱要領に基づいて、傍聴許可しております。会議の途中でも、傍聴者があった場合は、傍聴要綱に沿って入場させていただきますのでご了承よろしくお願いいたします。

それでは本日の議題は、令和6年度事業報告について、2番目が、令和7年度事業計画及び進捗所報告

について、3番目にその他となっております。議事進行につきまして、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは議題1 令和6年度事業報告について、事務局から説明をお願いいたします。

(藤原課長)

はい。それでは、議題1につきましてご説明いたします。

令和6年度事業報告につきましては、令和7年2月に会議開催の際にお伝えしておりますので、まとめて報告をさせていただければと思います。

ご質問等ございましたら後ほどお寄せいただければと思います。それでは、お配りいたしました資料の1、令和6年度事業報告、こちらをお開きください。

令和6年度の利用統計でございます。

開館日数が年間令和6年度につきましては287日、入館利用者数は2万7,162人でございました。学校団体は24団体、一般団体は108団体となっており、入館利用者数は令和5年度を上回っている状況でございます。

続きまして、展示につきましては、第五次朝霞市総合計画の中で年間6本の展示を行うという指標で指定をしております。

まず1本目第38回企画展「根岸古墳群と内間木古墳群～朝霞の古墳時代～」こちらは超速報的な調査結果でございます、宮戸の人物・峽遺跡から出土いたしました形象埴輪などの資料を展示いたしました。2本目はテーマ展示。こちらは池田幹雄追悼展でございます。

内容は長年にわたり、朝霞市美術協会の会長として尽力され、令和4年に逝去されました日本画家池田幹雄氏を追悼した展示で、池田氏の作品27点をご紹介いたしました。5月22日には展示作品のうち日本画13点、水彩画29点の計42点の寄贈を受け、市長から作品所有者の池田由利氏に対しまして、感謝状を贈呈しております。

3本目の展示は同じくテーマ展示。「朝霞市県展作品展」令和6年度の第72回埼玉県美術展覧会に出品されました市に在住在勤在学しております方々の作品23点を紹介いたしました。

続きましてギャラリー展示でございます。こちらは3本でございます。

全体の4本目となります展示、「朝霞と地震－関東大震災から100年を迎えて－」は令和5年度からの引き続きの展示となっております。

そして5本目となります。「皇女和宮下向と朝霞」。

6本目が「あさか発掘調査速報展－足元に眠る地域の記憶－」でございます。速報展につきましては文化財保護係が令和5年度に実施をいたしました市内の遺跡の発掘調査成果につきまして、展示を行ったものでございます。

続きまして収蔵資料紹介展示でございます。

こちら全体の7本目として展示室全部を使いまして、小学校3年生の博物館利用事業展示「昔の道具」を紹介いたしました。

この結果6本の指標に対しまして7本の展示を行うことができました。

また、簡易的な資料紹介展示といたしまして、「独楽」、「ワタから糸へ」、博物館学芸員実習生2班がテーマを設けての展示を行いました。

生態展示は年間を通して水の生き物、夏の時期はカブトムシ、こちらをラウンジで展示しております。講座に移らせていただきます。

講座につきましては歴史講座と古文書講座の2本を実施しております。

続きまして体験教室でございます。

体験教室は年間7本を実施しております。

夏休み期間に3本、当館学芸員等が講師となり行っております。

続きまして博学連携事業でございます。こちらは第五次朝霞市総合計画において、市内15校が博物館を利用する指標となっております。

小学校3年生博物館利用事業で市内10校全校の児童にご来館いただくことができました。

また小学校1年生の博物館利用事業につきましては、「タヌキの糸車」に伴いまして、出張事業を実施しております。

令和6年度につきましては9校で実施をしております。

またここには掲載しておりませんが、学校団体24団体の内訳といたしまして、中学校社会体験チャレンジ事業、ふれあい3daysにおいて、市内全5校の中学校から1年生の生徒さんが1月から2月にかけてご来館いただいております。この指標におきましても、市内小・中学校合わせて全15校全ての学校が博物館を利用いただいております。

また博物館利用検討委員会につきましては、市内小中学校の先生の会議体でございますが、プログラムの中で博物館での会議、収蔵庫の見学、体験実習を実施いたしました。

また、先ほど触れさせていただきましたが、博物館学芸員実習につきましては、5大学5名の学生の実習を8月に受け入れました。

最後になります。その他でございます。

令和6年度につきましては、館内くん蒸以外に館の外壁等改修工事を実施いたしました。

内容は博物館の外壁タイル及び金属屋根の補修、コンクリート部分の塗装、屋上防水等でございます。

令和6年度の説明は以上でございます。

(金子会長)

ありがとうございました。

ただいま事務局から説明がございました。何かご質問ありませんでしょうか。

(利根川委員)

はい。

(金子会長)

利根川委員どうぞ。

(利根川委員)

ちょっと何点か確認をさせていただきたく存じますが、2ページで体験教室関連展示「ワタから糸へ」について、参加人数が多い部類に入るとお考えですが、令和6年の11月28日から本年の2月24日までで6,770人、これ大体1日平均七、八十人は来館されているのかなという状況だと思いますが、この内容は、その展示物で紹介をしているのか、実践してやられているのか、またこれだけ参加者が多いという何か理由でもあればお聞かせいただければと思います。

(金子会長)

はい、どうぞ。

(藤原課長)

はい。まず人数でございます。6,770人と書いてあるのですが、こちらの人数は、この期間に入館した方と同数になっております。「ワタから糸へ」の展示紹介の方法についてはラウンジにケースを一つ置きまして、ケースの中に綿繰り機と糸車等を展示し、その横にモニターにて綿繰りをやっているところ

を撮影したものを流している内容で展示をさせていただいております。

(金子会長)

はい、ありがとうございました。

(利根川委員)

はい、引き続いてすいません。

博物館実習生展示ってありますが、この博物館実習生っていうのはどういう方が、この実習生として資格があるのか、また何名ぐらいいるのかお聞かせください。

(金子会長)

はいどうぞ。

(藤原課長)

はい。博物館実習生については、学芸員の資格を取りたいという大学生が学芸員資格取得の過程にて実際に博物館で学芸員になるための実習を行うというカリキュラムが各大学で定められておりまして、学芸員資格取得の過程の学生が毎年来ています。大学により3年生や4年生がお見えになっておりまして、定員は6名までで、夏休み期間に2週間ほど博物館に来ていただき、実際に学芸員から指導を受け、刀剣の方の取り扱いや古文書類の取り扱い方を学習いたしました。

当館の場合、2週間の実習中に、2名から3名の班に別れ、展示を作成していただくカリキュラムを組んでおります。

(金子会長)

はい。あと何かございませんでしょうか。

はい、陶山委員どうぞ。

(陶山委員)

今の回答いただいた大学ですが、どの辺というかどこの大学か伺えますか。

(藤原課長)

この近辺の大学生さんが多く、東洋大学など、その年によってバラバラですが、今年度ですと駒澤大学、学習院大学等です。

(金子会長)

よろしいですか。

(陶山委員)

はい。

(杉山委員)

はい。

(金子会長)

杉山委員どうぞ。

(杉山委員)

すいません。前の協議会からずっと申し上げていますが、アンケートの回収数が少ないので何か改善点をとお話ししましたが、何か改善点をされているのかと、あとそのアンケートの結果についてこういった協議会で公表していただいた方が我々も意見が言えるのではないかとということと、こういった協議会は一応博物館法に基づいて置かれているものですので、この事業計画の中に、結果としても入れた方がいいのではないかとという提案です。

(金子会長)

はい。

(藤原課長)

アンケートにつきましては、令和6年度の3月から変えています。第5期朝霞市総合計画までは指標として博物館における展示の回数を年間6回開催するとしておりましたが、次の第6期朝霞市総合計画では、指標に変更があり、文化財課の事業に対する参加者の満足度が変わっております。

このため、アンケートにおいて、満足度を聞き取る形に改めております。今まで以上により皆様のご意見が反映される方向に事業内容を持っていく必要があると思っております。

ご指摘いただきました、協議会での公表につきましても、今後資料の中にも入れてまいりたいと思っております。

(金子会長)

よろしいでしょうか。

(杉山委員)

はい。

(金子会長)

あと何かございませんでしょうか。

はい。

(増山委員)

増山です。よろしくお願いいたします。

お伺いしたところで博物館の事業計画のところで満足度が一つの指標になってくると伺いました。そこで、博物館的の課題となってくるのが、いわゆる一般受けする企画と、文化財保存を考えた企画ではずれが生じてきてしまうと思います。本質的に文化財の保存と、一般の方の満足のずれを、どのように調整するかが今後課題になると思いますが、どのように考えていますか。

(金子会長)

はい、どうぞ。

(藤原課長)

はい。ご指摘いただきました、一般の方々の興味志向が向く方向と博物館の展示のあり方、こちらは国やイコムでも議論がなされております。

一般向けのみ狙うのであれば、日本の場合漫画やアニメだけ展示していれば人が来るという意見も言われている中で、当館としては広く朝霞市の歴史、これまでの経緯を、後世、特に子供たち中心に伝えていく目的がございます。確かに難しい部分があり、NHKの大河ドラマで鎌倉時代が取り上げられると、鎌倉ブームが起きていろんなところで追随するような形で鎌倉時代の展示が行われたり、徳川家康のドラマが放送されると戦国末期の展示が求められて、去年は、「挂甲の武人」という埴輪が国宝として指定されてから50周年という、式年でございます、東京国立博物館含め、日本全国で埴輪展が多く開かれ、当館も狙ってはいなかったものの、古墳時代の埴輪を展示する企画展を計画していたため、他館との資料貸借の交渉の中で企画がかぶってなかなか貸していただけないような資料もあったりと、そのような状況がございました。このように博物館が目標に掲げているものと一般の方の考えには当然乖離が生まれてまいります。

また当館は大きい館ではございませんので、学芸員の専門分野、どのような部門を研究しているか、偏りがございます。当館は考古・歴史・民俗・美術工芸という4分野を展示の柱としておりますが、その中

で現在、学芸員は、考古・歴史の担当者しかおりません。市民の皆様から満足度を調査した際、美術や、民俗を見たい、あるいは自然科学の分野を見たいとおっしゃられても担当がいなかったために対応が難しい場面も出てくるかなと思います。これは当館の置かれている状況と、市民の皆様とのずれということで違う部分では出てくるかと思いますが、それらを総合的に考え、満足度を市民からの声とするか、一般の方が見たいものであれば当然展示すべきと考えております。

一方で非常に難しいところで、私たちも指標にするときに悩んだ状況がございます。ただ市民あつての博物館というところもございますので、皆様の声を大事にしながら耳を傾けながら、やるべきことをやっていくことは重要になってくると思います。そこは悩みながらも、展示を担当する学芸員の専門を生かしながら対応していきたいと考えております。

(金子会長)

はい。ありがとうございます。

他に意見もないようですので、議題2の方に移ってよろしいでしょうか。

令和7年度事業計画及び進捗報告について、事務局から説明をお願いいたします。

(藤原課長)

それでは議題の2、令和7年度事業計画及び進捗報告につきましてご説明をいたします。

内容につきましては、今年度9月末までの実績と今後の計画を合わせまして事務局より報告をさせていただきたいと存じます。

まず資料の2の利用統計でございます。

令和7年度9月末までの開館日数でございますが、146日、入館利用者数は1万4,304名でございます。

学校団体は4団体となっております。そのうち1件は杉山委員の引率で駿河台大学の学生さんの博物館見学実習にご利用いただきました。

また、一般団体につきましては昨年度が年間99団体に対しまして、9月末までの間に73団体となっておりますが、こちらは市内よりも市外の高齢者施設や障害者施設の方の利用が多くなっている状況でございます。

続きまして事業報告等計画を併せてご説明いたします。

初めに企画展でございます。企画展につきましては通常10月から11月にかけて実施しておりますが、昨年度開催の第38回企画展につきましては、年度末3月から今年度の5月6日ゴールデンウィーク明けまでの会期となっております。

また、今日お手元にチラシの方をお配りさせていただきましたが、明日11月1日土曜日から12月14日の日曜日までの会期で、第39回企画展「江戸時代の旅へ 川越街道膝折宿」を実施いたします。今回の企画展では川越街道の膝折宿を中心に、江戸時代の宿場機能と公用通行についてご紹介をする予定でございます。

チラシをご確認いただければと存じます。今回の展示にあたりましては、杉山委員には、ご多忙の中、展示指導並びに関連講座の講演会の講師を引き受けていただき、格別のご協力、ご配慮を賜りました。この場をお借りして、改めてお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

次にテーマ展示でございます。

こちらは、9月に朝霞市県展作品展を実施し、28作品を紹介いたしました。

資料の2ページ、ギャラリー展示でございます。こちらは今年度で3回目となりますが、文化財保護係が中心に実施をいたしました「あさか発掘調査速報展－足元に眠る地域の記憶－」を実施しております。

令和6年度は発掘調査が4件ございましたので、非常に充実した展示になり、関心が多く寄せられました。この中で第38回企画展の中での出しきれなかった埴輪等につきましても、出させていただきます。また、5本目となりますギャラリー展示につきましても、タイトル未定となっておりますが、冬から行う予定としているもので、担当が内容を最終調整しているところでございます。

続きまして、収蔵資料紹介展示でございます。こちらは昨年度からの引き継ぎで小学校3年生の博物館利用事業展示「昔の道具」を実施いたしました。

1月以降につきましても、小学校3年生博物館利用事業に合わせまして昔の道具を昨年とはものを変えながら紹介をする予定です。

資料紹介展示はケース1台程度で行うものでございますが、「独楽」それから「ワタから糸へ」こちらは昨年度と同様のものになります。

博物館実習生は今回6人の実習生が参加していただきました。

今年のテーマは博物館実習生から見た戦争資料ということで、班ごとに、ケースで展示をしていただきました。

続きまして生体展示でございますが、こちらは通年で行っている水の生き物のほか夏には、当館で飼育しております、カブトムシを展示しております。

講座は歴史講座と古文書講座二つの講座を年明けに行う予定です。

博物館体験教室につきましても5本を予定しております。

今年度、「たたき独楽」と「初めての篆刻」は終了をしております。

篆刻は4年目になり、県展作品展に合わせまして、大人向けの講座となっております。

たたき独楽では定員を設けずに、時間内で自由に参加いただきました。

また初めての篆刻につきましても16人の定員ということで多数の応募がございました。

今年度においては、昨年度まで定員6名だったものを16名に増やしましたが、申し込みが非常に多い状況でございました。来年度以降につきましても、より申し込みがしやすいような工夫をしながら実施をしたいと考えております。

次に夏休み体験教室でございます。

こちらは既に3回を実施しております。

「まが玉をつくろう!」、「コースターをつくろう!」、「飛び出す!動く!しかけ絵」、それぞれ定員は16名でございます。

いずれも作成に時間がかからないので午前午後の2部制といたしました。

なお、定員の中で、小学校1年生につきましても保護者同伴としており、その人数が含まれております。

続きまして博学連携事業でございます。今年度も小学校3年生の博物館利用事業と小学校1年生の博物館利用事業、こちらを計画しており、現在各校と日程調整を行っている状況でございます。

博物館利用検討委員会につきましても、今年度、6月30日に実施をしております。

16人の先生にご参加いただきました。

博物館学芸員実習の学生実習につきましても、先ほど展示でも説明いたしましたが、今年度は5大学、6名にて実施しております。

展示を作り上げながら、刀剣の手入れ、資料調査の仕方など、博物館に関する実習を行っております。最後その他になります。

今年度も6月13日から18日までの5日間の日程で、館内展示を実施しております。

2点目の説明は以上でございます。

(金子会長)

はい。ありがとうございました。

ただいま事務局から説明を受けましたが、ご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。

(利根川委員)

はい。

(金子会長)

どうぞ。

(利根川委員)

はい。夏休みの体験教室みたいな人数限定でやることは別として、市内の小学校の3年生を対象にした事業だとか、1年生を対象にした事業において、学校全体、学年全体で取り組むことについて、なかなか参加ができない不登校のお子さんもいらっしゃる中で、今、1人1台タブレットを持っているという状況の中で、学校が博物館を利用した取り組みについて、何かオンラインで様子を伝えるってことは試みているのでしょうか。

(藤原課長)

はい。ご質問ありがとうございます。既にオンラインで、タブレットを使って展示を見ながら写真を撮ったり、いろいろな状況でタブレットを使用しておりまして、ポケットWi-Fiを使わせていただいて、博物館利用事業では、先生がお休みの児童向けに映像配信をしたということもございました。不登校やインフルエンザ、コロナなど、登校できない児童向け利用が着々と進んでいる状況でございます。

(利根川委員)

今ポケットWi-Fiを使ってその事業でオンラインでも利用しているということで、私も前に言ったと思いますが、博物館自体のWi-Fi環境を今後どのようにしていこうと考えているのか、お伺いします。

(藤原課長)

はい。ありがとうございます。ポケットWi-Fiを入れていただくご尽力いただいた際に調べたところ、館の中が非常に高く広いので、Wi-Fiの整備には相当な金額がかかることがわかりました。本格的な整備につきましては、大規模改修の際に検討してまいりたいと考えております。

(金子会長)

はい。よろしいですか。

(利根川委員)

はい。

(金子会長)

ありがとうございました。

あと何かございませんか。

(杉山委員)

はい。

ちょっと意見を申し上げたいと思います。

今回のこの企画展の展示の指導ということでお伺いさせていただき、展示作業を見ていて思ったのですが、学芸員が1人で作業していて、誰も手伝いに来ないことに同じ学芸員をしていてちょっと驚きまして。県博だと、係や担当を超えて手伝いをしていて、自分の勉強にもなるし、あるいは危機管理上も、何かあったときにいろいろなことで対応できると思いますし、あるいは先輩のノウハウがそこで受け継が

れるということがあると思うのですが。

そういう体制を、やっぱりこの館として、文化財課の人も学芸員資格者がいらっしゃるの、対応できるといいなと思いました。

先月桶川の歴史民俗資料館にて、展示指導をしまして、1日から始まった展示ですが、あそこも文化財担当も兼務で、5人か6人しかいないのですが、館長は議会对応で出たり入ったりしていましたが、事務の技師の方が電話番号で1人残って、それ以外の全員が展示を手伝っていました。結局今回の展覧会は担当学芸員1人でやってそれで終わってしまうとそこで得た経験等を引き継がれていかないということになりますのでぜひ今後は考えてもらった方がいいかなというふうに思いました。

以上です。

(金子会長)

ありがとうございました。

(藤原課長)

すいません貴重な意見ありがとうございました。

実は杉山先生がいらっしゃったところでは入っておりませんが、その場以外のところで配線の設置や細かなことや展示に係る事務の調整等ということで、職員が動いていましたが、もっとそのような場面が見えるように、強化・改善していけたらと思います。

(金子会長)

あと何かございませんか。

(増山委員)

歴史講座ですが、人気があると思いますけども、講座の内容は、また今年度も同じような内容でしょうか。

新たな方の参加状況なども教えてください。

(金子会長)

はい、どうぞ。

(藤原課長)

はい。歴史講座は私が担当しておりましたけれども、講座の内容は年度ごとに変わっております。昨年度の歴史講座につきましては、地図・絵図ということで行っていました。宮原先生に、絵図・地図でやっていただきました。非常に人気が高くて、江戸時代の絵図を見ても、今と地形や、地図上の状況が変わっていないという認識を持っていたいたところがございます。毎回ご希望をいただきますが、内容的にも若干ずつですが変わっております。今年度につきましても、昨年度の絵図・地図が非常に人気が高く、落選された方も非常に多かったので、内容を見直した上で、昨年度の人気も踏まえお願いしているところでございます。また、古文書講座につきましても、初めての古文書ということで、イロハから読む形にするのか、それともある程度読める方を対象にするのか、難しいところがございます。先生と調整をして、資料を変えていただいて、毎回少しずつ変えていく試みをしております。ただ、コロナのときになかなか変更できなかったこともあり、今回何年か振りで変更いたしました。皆さんから、次はこういうのをやってほしいというお声が出てくるようになったので、それを直接先生に伝えさせていただいて、プログラムを組んでおります。

改めて移り住んだ朝霞を知りたいという人がいらっしゃいます。その方たちに、もう少しPRできたらと思うんです。そういう人はいろんなことを知りたがってるような気がします。

ホームページとかあると思いますが、そういったPRも考えられたらと思います。

(金子会長)

古文書の講座の方は、人数の方が一定して大勢の人に参加いただき、人気があるんですね。

(藤原課長)

はい。

(金子会長)

あと何かございませんでしょうか。

前もって資料をお送りしておりましたので、皆さんで見えていただいて、これと思うところはチェックしていただいていると思いますけど。

ご意見がないようでしたら次に進んでよろしいでしょうか。

質問がないようですので、議題3、その他について説明をお願いいたします。

(藤原課長)

連絡事項ということで、次回の協議会は来年2月頃の開催を予定しております。開催日時や場所の詳細につきましては改めて事務局よりご連絡させていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、令和7年度第1回朝霞市博物館協議会を閉会します。本日はありがとうございました。